



令和8年度
学校だより

Attractive Azuma
つなが

吾妻学園
つくば市立吾妻中学校
第24号
発行日 R8. 8. 25

人の命を守るために学ぶ

心肺蘇生・AED 研修会

7月29日(水)午前、教職員対象の心肺蘇生・AED 研修会を行いました。養護教諭の都賀 先生の計画によるもので、毎年、夏休みを利用して全教職員で研修を行っています。この日は、つくば市中央消防署の方、5名に來校いただき、5つのグループに分かれて実習を行いました。胸骨圧迫・人工呼吸・AED 使用の3つをそれぞれ実習したのち、倒れている人を発見した時点から AED 使用までを、通して実習しました。胸骨圧迫の際、1セット 30 回、肘が曲がらないように約 5 cm 沈み込むように押すことは練習が必要。そして 10 秒以内に人工呼吸。額を押さえて 2 本指であごを上げて気道の確保し、鼻をふさいで 1 秒間に 2 回、息を吹き込むことも慣れないと難しいものがあります。改めて、この実習を毎年行うことの必要性を強く感じました。いつ誰がそのような場に遭遇するかは分かりません。全教職員が一人ずつ実習し、もしもの時に備えてまいります。



人の命を守るための学び

8 年心肺蘇生学習



7月上旬、8年生の保健体育の授業の中で、AED を活用した心肺蘇生法の学習を行いました。担当の吉川 先生が昨年度、心肺蘇生法の研修を受講し、実施しています。授業はクラスごとに体育館で実施しました。まず、ASUKA モデル(※)の動画を視聴後、「心停止」について学び、「心停止は、心臓が止まることではない」ことを理解。その後、実習として、まず、ペアで心肺蘇生トレーニングキット「あっぱくん」を使って胸骨圧迫の練習をし、そして 4 人グループで、倒れている人の発見から救急車が来るまでの対応について、ロールプレイを行いました。それぞれ、倒れた人・第 1 発見者・AED を持ってくる人・大人を呼びに行く人の役を担当しました。AED 使用は 5 分以内が目標ですので、計時も行つての実習です。体育館で倒れた想定のため、どのグループも約 2 分半で AED を用意できました。生徒の感想では「大きな声を出せるか」「人を集められるか」「手順を覚えていられるか」「5 分以内にできるか」「実際は緊張するかも」と心配の声が多くありました。吉川先生からは、実際にあった、中学生が心肺蘇生と AED の使用で命を救った話を聴くと、いつ起きてもおかしくないことであり、自分たちでも人の命を救えることに、この学習の大切さを実感していました。

※2011 年 9 月、さいたま市の小学校 6 年生の桐田明日香さんが駅伝の課外練習中に倒れ、死亡するという事故がありました。検証の結果、明日香さんが倒れた直後に「けいれん」や死戦期呼吸と呼ばれる「ゆっくりとあえぐような呼吸」があったために、教師らは心臓が止まっているとは思わずに、校内にあった AED を使わなかったことが分かりました。この事故の反省をふまえ、さいたま市教育委員会とは遺族と共に、「体育活動時等における事故対応テキスト：ASUKA モデル」が作成されました。

最後に、AED の場所を保護者の方も含め、皆さんに知っておいていただきたく、お伝えします。屋内は 1 階の保健室前、屋外は体育館入口、の計 2 台設置してあります。



1 階の 7 年生教室の手前

【屋内】

保健室ドアの前



体育館の玄関前・外側

【屋外】

入口ドアの左側の壁